

道徳学習指導案

神石町立神石小学校 池上 弘三

1 学 年 第6学年

2 主題名 「地域のために」

4 - (4) 勤労・社会奉仕

○ 2 - (2) 思いやり・親切

○ 2 - (5) 尊敬・感謝

3 資料名 「看護婦の川口さんへ」(小学生のあゆみ6年・青葉出版)*一部改作

4 主題設定の理由

- 新学習指導要領 第1章総則の一般方針の中に「家庭や地域社会との連携を図りながら、ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない」とある。

言うまでもなく、人間社会は、それぞれの人々がお互いの立場や存在を認め合い、共に支え合う人と人との結び付きをより強くするものであるといえる。また、ボランティア活動は、活動することによって、人のために役立つという大きな感動を体験できるとともに、人々とともに生きていることのすばらしさを感じとることもできる。ひいては、自分自身の心の成長につながるものであると考える。

本学習の中心となる指導内容は、「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役に立つことをする 4 - (4)」である。勤労には、何らかの苦痛や困難が伴うが、それを一生懸命することにより、ほかの人に喜んでもらったり、地域や学校などに役立ったりする。そして、それが子どもたちのやりがいとなり、更には集団のために、もっと進んで働こうとする意欲を高めることができる。

- 本学級の子どもたちは、素直で明るく活動的である。学級目標「油木小の機関車になろう」を合い言葉にして、特に全校にかかわる児童会活動を頑張っている。その児童会活動の一つに奉仕活動がある。例えば、アルミ缶の回収や校舎内のゴミ集め、学校敷地内の草取り、生き物(鹿・うさぎ・鯉)の世話など多岐にわたっている。また、不定期であるが、地域内にある老人ホームへの訪問交流も行っている。しかし、子どもたちの活動の様子を見ると、その活動は主体的なものではなく、ややもすると、やらされている活動になりがちであった。また、家庭や社会で働くことの体験が少なく、どちらかと言うと苦しいことや面倒なことに対しては、積極的に取り組むことができないのが現状である。更に、毎日の清掃において子どもたちは、やらなければならないことだからやっているという意識が強い。まだ、自分から仕事を見つけて働こうという意識にまでは高まっていない。

そこで、このような子どもたちの実態を踏まえ、これからの道徳教育に求められて

いる，豊かな体験による内面に根ざした道德性の育成を図ろうと考えた。豊かな体験とは，人間としての生き方にふれることのできる体験や，児童が興味・関心を示し，より主体的に活動できる体験である。また，共に生きる心を育てるという視点から，社会や人とのかかわりを深めることのできる体験であるとする。

このような体験を通し，道德的価値の内面的自覚を図るために，体験活動と道德の時間を有機的に関連付けた総合単元的道德学習の在り方を追求していきたい。

- 道德の時間だけでは，道德的实践に結び付く力の育成は難しい。そこで，まず，事前体験を仕組み，子どもたちの心を耕やしていく。そして，道德の時間では，ねらいとする価値について自分自身とかがかわらせることによって，より深く感じ考えさせていきたい。更に，事後体験を仕組み，道德の時間に高まった意欲を道德的实践につなげていきたいと考えた。

さて，総合単元的道德学習は，子どもたちが生き生きと主体的に学習することをめざすものである。そこで，単元の流れを道德の時間を中核にして，自ら考え主体的に行動していく問題解決学習の流れにすることが効果的であると考え，次のような計画を構想した。

段	階	子どもの意識	関連	留意事項
気づく ↓ かかわる ↓ 見つめる ↓ 生かす	単元のめあてや学習内容を知り，学習の方向に気づく段階	・ 知りたい ・ やりたい ・ 調べたい	学活	○ 単元名，ねらい，学習計画を知らせる。 ○ 問題意識や自分なりのめあてをもたせる。
	豊かな体験活動を通して，ねらいに関する道德的価値にかかわる段階	・ ～と思った ・ ～を感じた ・ ～が分かった ・ ～が心に残った	特活 教科 日常	○ 多様な体験活動をさせて，道德的価値とのかかわりを豊かなものにしていく。
	道德的価値について追求し，価値に照らして体験活動での自分を見つめ，道德的实践力を高める段階	・ ～が大切なことだと分かった ・ これからは～したいな	道德	○ 単元のねらいに合う資料を選定する。 ○ 総合単元的道德学習の中核となる時間である。
	道德的实践力を生かし，主体的に道德的实践をする段階	・ ～して気持ちよかった ・ またしたいな ・ うれしかった	特活 日常	○ 児童の实践意欲をもとに計画を立てる。 ○ 児童が主体的に取り組める体験を行う。

したがって、指導に当たっては、まず老人ホームを訪ね、相手に喜んでもらう活動を通してボランティア意識を高め、そこでの満足感が後の活動に生きて働くようにしていきたい。また、道德の時間を通して、「ボランティアは自分の喜びだ」という気持ちを感じることができるようにしたいと思う。つまり、体験を基盤に道德学習を行い、道德的価値を子どもたちが主体的に追求するような単元を構成していくことにある。(体験等総合型)

*心のたがやし *道德的实践力 *道德的实践

そして、子どもたちの書いた感想文や行動観察をもとに、事前体験の問題点を明確にする自作資料を用いて、体験の中にある道德的価値がとらえられるようにし、事後体験で道德的实践が可能になるようにしていきたい。



体験活動の中でも、特に、共に生きる心を育てるという観点から、社会や人とのかかわりを深めることのできる体験を位置付け、体験から道德の時間へ、道德の時間から体験へという活動の流れにした。

総合単元的道德学習によって、所期のねらいを達成することができるか否かは、学習展開の経過において、子どもの初めにとらえた課題意識を持続し発展させることができるかどうかにかかっていると言える。

5 総合単元的道德学習の実際

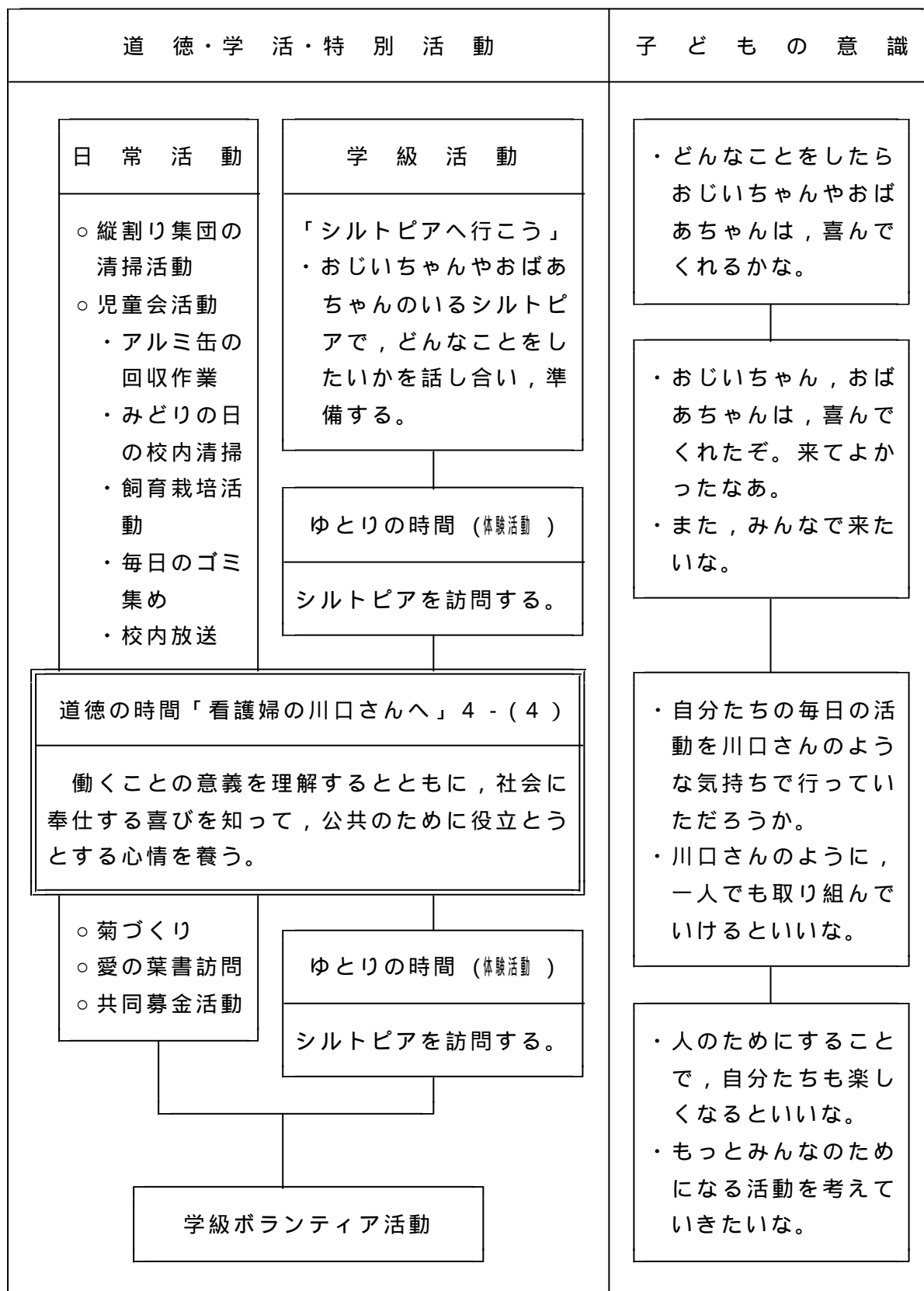
(1) ねらい

総合単元名	地域のために
ね ら い	○地域や他の人のために働くことのよさに気付き、進んで公共のために働こうとする心情を育てる。

(2) 留意点

道德の時間を中核として、他の教育活動と関連させ、子どもの意識の継続・深化を図った総合単元的道德学習を構想していく。そして、子どものよさが生きる支援に取り組むことにより、道德的实践力をより高めることができ、豊かな心をもち、進んで実践する子どもを育てていくようにする。

(3) 総合単元構想図



6 本時の目標

- 働くことの意義を理解するとともに，社会に奉仕する喜びを知って，公共のために役立とうとする心情を育てることができる。
- 友達の意見にかかわり合いながら，全員が学習に参加することができる。

7 準備物

- 資料「看護婦の川口さんへ」
- 道徳学習ノート
- 板書カード

8 展開の概要

支援過程			学習活動	主な発問と予想される反応	支援の留意点
導入	価値への方向づけ	気づく	1 老人との交流活動について思い出す。	○ 老人ホームへ行って，どんな気持ちで，おじいさんやおばあさんと接しましたか。 → 喜んでほしい。 ○ 汚物の処理を必要とする高齢者に接する時，あなただったら，どのような行動をとりますか。 → きれいにふいてあげる。 → きたないのやりたくない。	ビデオを見て，老人ホームへの訪問を思い出させ，どういう思いで訪問したか語らせる。 本音を出させ，どういう行動をどのような思いでとるか判断・理由付けさせる。
			2 資料「看護婦の川口さんへ」を読んで資料の概要をとらえる。	○ 「わたし」は川口さんに，どんなことが書きたかったのでしょうか。 → よく世話をしてくれたお礼の気持ち。 → 「働く」ことについて，いろいろ学んだこと。	資料の手紙に書いてある概要を読みとらせる。
展開	中心資料による価値の追求	考える	3 役割表現をして，わたしと川口さんの気持ちを考えさせる。	○ 資料の□□にどんな言葉が入るでしょうか。わたしと川口さんの気持ちを想像して，劇として表現してみましよう。 → 子どもたちが，即興劇として表現する。	役割表現をさせて，わたしの思いと川口さんの仕事をするときの気持ちを考えさせる。

開 30 分	・ 把握	深 め る		川口さんは「...がわたしの仕事よ」と、どんな気持ちで言ったのでしょうか。 → 病気の人に心配させない。 → 早く病気が治ってほしい。 → 病気が治るのがうれしい。	川口さんが、働くことをどのようにとらえているかを考えさせ、ねらいとする価値へと迫らせる。
	主 体 化	わ か る	4 自分の生活を振り返り、自分を見つめる。	○ また老人ホームへ行ったときどんな気持ちで、おじいさんやおばあさんと接しますか。 → 川口さんのようにしたい。 ○ 介護が必要なお年寄りに接した時にどうするのかをドラマにしよう。 → 子どもたちがドラマによって表現する。	相手を思いやる優しい気持ち（人間愛）が必要であることに気付かせる。 疑似体験させ、道徳的实践につなげていく。
	終 末 5 分	あ た た め る	5 地域の人のお話を聞く。	○ 老人ホームで働いておられる人の話を聞きましょう。	老人ホームでボランティア活動されている人の話を聞き、道徳的实践意欲を高めさせる。